

結婚するのが難しい時代？

統計から見た新津市の結婚事情

＊

結婚……。それは、独身の人にとっては憧れの言葉です。しかし、最近、「なかなか相手が見つからず困っています。だれかいい人はいませんか」という話をよく耳にします。現代は、個性の時代ともいわれるように、ライフスタイルも著しく多様化しています。そして、当然ながら、結婚に対する考え方も随分変わってきてきました。こうした中、市内でも未婚の男性、女性が増え、結婚難がささやかれるようになりまし。それでは、新津市の実態はどうなのか。結婚観の背景などを探りながら、皆さんといっしょに結婚について考えてみたいと思います。

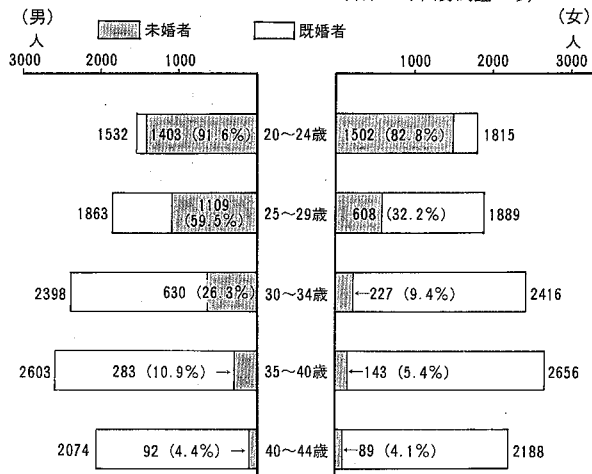


男性の未婚者は女性より多くなっています

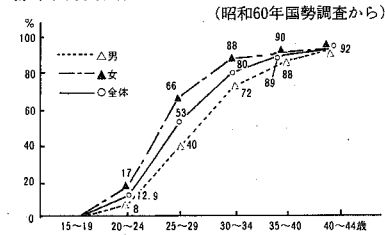
新津市の結婚の実態を、昭和六十年に実施した国勢調査の結果から見てみましょう。

まず、(グラフ①)を見てくだ

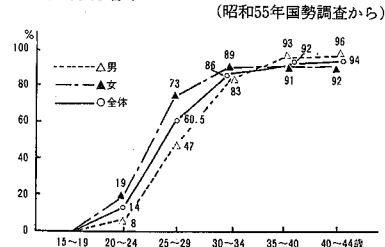
(グラフ①) 新津市の年代別未婚者数と未婚率 (昭和60年国勢調査から)



(グラフ②) 各年代別既婚率 (昭和60年国勢調査から)



(グラフ③) 各年代別既婚率 (昭和55年国勢調査から)



さい。二十～二十四歳代を除く各年代とも、男女の総数は、ほぼ同じになっていきます。しかし、未婚者数を比べると、男性の方が女性より圧倒的に多くなっています。

男女の結婚年齢には五歳ぐらいの開き

次に、「結婚する人たちは、どのくらいの年代で結婚しているのか」、つまり、既婚率の状況を見たものが、(グラフ②)です。

女性の場合、既婚率は、二十～二十四歳代で一七％、二十五～二十九歳代で六六％、三十～三十四歳代で八八％となっています。

一方、男性の場合は、二十～

十四歳代で八％、二十五～二十九歳代で四〇％、三十～三十四歳代で七二％、三十五歳以上で八八％となり、ようやく女性の既婚率と肩を並べるようになります。

女性の晩婚化と三十年代男性の独身率上昇

最後に、各年代別の既婚率を、五年前の国勢調査の結果(昭和五十五年実施、(グラフ③参照))と比べてみます。

二十五～二十九歳代の女性の既婚率が七三％から六六％に減少し、三十～三十四歳代の男性の既婚率が八三％から七二％に落ち込んでいます。

このことから、女性の晩婚化が進み、三十年代男性の独身率が上昇していることがわかります。

男女比のアンバランスからくる男性の結婚難

これらの調査結果の背景には、結婚の枠外で生きる人たちの増加——「非婚時代」というライフスタイルの浸透と適齢期人口の男女のアンバランスからくる男性の結婚難があるといわれています。

しかし、結婚に対する期待や不安が入り乱れ、「結婚の話は、家族の口論のもと」という現実もあります。このことから、表面的な実態の分析「女性は進んで非婚、男性は余儀なく非婚」だけでは、片づけられない問題があるのです。

結婚が難しいといふ人は...

後継者不足はまちづくりにも影響

＊

「結婚難」は全国的な現象です

戦後の第一次ベビーブームと、その後の子ども減少という両極端から派生した「結婚難」現象は、全国的なものといえます。特に、三十歳を過ぎた中堅男性の結婚難は、後継者不足という問題だけでなく、地域の活性化など、将来の

後継者の不足は社会的な問題に

まちづくりに不安の影を落としています。

私たちのまち「新津市」でも、結婚難という問題は、例外ではありません。農業地域へ行くと、今は近代化され、サラリーマン化した農家であっても、「農家へ来てくれるお嫁さんが少なくて、困っています。若い女性には、まだ農家に対して、誤った先入観があるんじゃないか」と、その不安を語る人は、少なくありません。

明るい豊かな家庭にまちづくりの基盤に

私たちの現在の生活は、すでに将来の後継者の土台の上に築かれている部分も多くあります。つまり、結婚難という問題にも積極的な目を向けていかなければならないのです。

現在、新津市では、二十一世紀に向け、十万人都市構想などを含めた活力あるまちづくりを進めています。豊かなまちづくりの基盤は、何といっても、今の若い人たちが新津市に定着して、健康で明るい家庭をつくっていくことです。両親やおじいちゃん、おばあちゃんなどの協力を得て、若い夫婦の生活が始まり、その子どもたちもいつかまた、夫婦生活を始めていく——その繰り返しが将来も続くことが大切なのです。



活を送ることが、新津市の発展にもつながっていくのです。

地域コミュニティが大きな手助けに

このような結婚難を解消するためには、相対的な男女のバランスを保っていくことが必要になります。具体的には、男女間の交流年代の幅を広げたり、交流の場を増やしたりすることや市外へ流出し、しまし未婚女性に対しての安定した職場の確保、国際結婚などがあげられます。結婚観という上から、結婚相手は、初婚でなければならぬという観念があるとなれば、もう一度考え直してみる必要があるのかも知れません。

また、情報交換や相談し合える環境も大きな役割を果たします。市では、地域に根ざしたいろいろ



るなコミュニティづくりを進めています。お年寄りやお母さん同士などが仲間を助け、結婚情報の提供など真剣に相談のつてくれるという環境づくりも大切なことです。

多くの人と出会うことで縁が生まれます

しかし、このような問題を解決するには、行政だけではなく、若い人たちが自身またはその周囲の人たちの取組みが必要になります。他人にばかり依存していたのでは、問題の解決にはならないのです。

これからは、若い人たちの手によって、交流の場をつくる必要があります。ますます重要になってきます。団体や企業、地域を越えた多くの出会いが、多くの縁を生み出していることも事実なのですから……。